



Title	農業における派遣労働力利用の成立条件に関する研究〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	高畑, 裕樹
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第12875号
Issue Date	2017-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67751
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Hiroki_Takahata_review.pdf, 審査の要旨



学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博 士（農学）

氏名 高 畑 裕 樹

審査担当者	主 査	教 授	坂 爪 浩 史
	副 査	教 授	坂 下 明 彦
	副 査	名誉教授	飯 澤 理一郎
	副 査	講 師	清水池 義 治

学 位 論 文 題 名

農業における派遣労働力利用の成立条件に関する研究

本論文は序章、終章を含む7章からなり、図13、表43、文献87を含む総頁数77の和文論文である。別に2編の参考論文が添えられている。

本論文は、農業における派遣労働力利用の成立条件を明らかにしたものである。

我が国の農業は、家族経営を主体としながらも、農繁期を中心に家族以外の労働力を利用してきた。近年、地域内での労働力調達は困難さを増しており、都市部における人材派遣会社からの労働力調達が増加傾向にある。しかし、農業において派遣労働力を利用することは、労働者の習熟問題や日雇い派遣の禁止にともなう派遣期間問題といった困難な問題が横たわっており、必ずしも円滑に行われている状況ではない。本論文は、こうした問題に対する派遣会社とそれを利用している農家の対応を分析することによって、課題に接近しようとしたものである。

第1章では、農業における派遣の契約形態と法的規制を整理し、労働者の派遣先が日ごとに異なり習熟が困難となる可能性があること、日雇い派遣の禁止により、短期利用が多い農業においても31日以上雇用関係を成立させなければならないという2つの問題を検出した。

第2章では、派遣利用農家の特徴と派遣労働者の選択要因を明らかにした。派遣利用農家は大半が稲作・畑作経営であり、利用期間はごく短期であること、派遣労働者を単純作業に従事させていることが分かった。単純作業が多い理由として派遣労働者の「質の低さ」、スポット利用が多い理由としてパート労働者の短期雇用の難しさが挙げられる。また、選択要因としてはパート労働者のスポット雇用における高賃金があること、それによって比較的高額な派遣料金との差が小さくなり、派遣労働者の利用に結び付いていることが明らかとなった。

第3章では「質が低い」といわれる派遣労働者の特徴を派遣会社の事例分析から明らかにした。派遣労働者は「質の高い」者から順に派遣会社との雇用関係を解消してより高い

賃金を得られる他社へ流出するという特徴を持っていること、これにより「質の低い」労働者が派遣会社に滞留する傾向にあることが明らかとなった。

第4章では、派遣労働者の「質の低さ」から生じる習熟問題、日雇い派遣の禁止にともなう派遣期間問題の対応方法を、派遣会社を分析して明らかにした。習熟問題の対応としては、派遣先農家を地域別に区分し、実働労働者を地域ごとに振り分け、同一農家に固定化して派遣していた。派遣期間問題の対応としては、作業期間が短期的な農家と、長期的な農家をシフトに組み込むことにより派遣の連続化を図っていた。さらにこの仕組みは、長期間の作業を持ち利用人数の多い農家が、同時に派遣労働力の短期的な過不足を吸収するバッファ農家となることで成立していることが明らかとなった。

第5章では、派遣労働力を多用しかつバッファ機能を有する農家を分析し、習熟問題に対応した派遣利用型農作業形態の形成論理とバッファ機能の保有による余剰派遣労働者の吸収方法を明らかにした。派遣利用型農作業形態は、派遣労働者を単能工と位置付けた上で作業自体を細分化し、監督的役割を正規労働者・パート労働者に与え、派遣労働者を管理させる派遣単能工利用型を基本としている。しかし、冬季における農作業の確保が不十分な経営ではパート労働者の囲い込みができず、一部の派遣労働者に監督的役割を与える監督的利用型が形成された。ただし、後者の場合、農家が派遣労働者を指定できず、また有能な派遣労働者ほど派遣会社を辞める可能性が高いといった限界があるため、持続的であるとはいえない。このように、派遣利用型農作業形態は、正規労働者・パート労働者の雇用期間の連続化による安定確保が重要なのである。他方、バッファ農家における余剰派遣労働者の吸収方法としては、除草作業などの雑業が主となっていること、そのことによってパート労働者の作業を軽減させ、パート労働者の安定確保の一助ともなっていることを明らかにした。

終章では以上を総括し、農繁期のスポット的需要が多数を占める農業における派遣労働力利用の成立条件は、バッファ農家における派遣利用型農作業形態の形成とバッファ機能の保持であることを明らかにした。これは、同農作業形態において派遣労働者を監督する役割を持つ正規労働者・パート労働者の再生産が困難になった場合、農業派遣そのものが成立しなくなる可能性を示唆するものである。

以上の通り本研究は、大規模化、集約化が並進する我が国の農業において活用が期待される派遣労働力について、その成立条件を先駆的に解明したものであり、学術的にも、また実際の農業生産振興上においても、きわめて重要な研究成果であるといえる。

よって審査員一同は、高畑裕樹が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。